

2025年8月20日作成

重症患者管理を適正に行うために一般病棟で統一した早期警告 スコアの運用を行った成果

この度海老名総合病院救急集中治療科では入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた研究を実施させていただいております。

この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。またプライバシー保護について法令等を遵守し研究を行わせて頂きます。

試料・情報について、本研究への利用をのぞまれない場合は以下担当者にご連絡ください。

1. 研究の対象

2023年12月1日～2025年11月30日までに入院患者されていた患者様です

2. 研究目的・方法・期間

1) 目的

バイタルサイン（体温・脈拍・血圧・呼吸など）は診療における最も一般的な情報として、日々の観察や病状急変時の全身管理に広く活用されています。一般病棟における病状が急変する患者様は8～24時間前より何らかの変化が現れるとされており、早期に悪化の徴候を把握することが患者様の救命や良好な神経予後の獲得に重要です。しかしながら、一般病棟では集中治療室等と比較して看護師の数が少ないため、バイタルサイン等の全身観察は間欠的であることと、医師・看護師の評価が経験値によって異なってしまうという課題があります。「National Early Warning Score (NEWS) は、バイタルサイン等の7項目から一般病棟における病状急変を予測する指標として開発されたもので、他のシステムと比較して死亡率の予測に優れていると述べられています。

当院では、重症管理のためにNEWSをモニタリングできるシステムを導入し、バイタルサインの測定結果がスコア化され、一覧で可視化できるようになりましたが、一定の予期せぬ死亡事例や夜間の急変事例が発生しています。そのため、一般病棟にモデル病棟を設定したところ、一定の成果が得られたため、水平展開を目的に、ワーキンググループを立ち上げました。その上で、看護管理者へ動機付けを行い、全ての一般病棟で運用を統一しました。このことで、予期せぬ死亡事例や夜間の病状急変の減少、集中治療室等への患者の流れに変化が出るのではないかと仮説を立てました。

NEWSの活用について予期せぬ死亡事例や夜間急変に関する一般病棟から高機能病床の患者の流れを調査した研究は見当たらなかったため、NEWS導入前後の比較を行い、分析することとしました。

2) 方法

(1) 研究期間：2024年12月～2026年3月

(2) 調査内容

- ①緊急コールの件数
- ②予期せぬ死亡患者件数
- ③一般病棟から集中治療室等への予定外の転出の件数
- ④集中治療室等から一般病棟に転出後に再度集中治療室等に入室した件数
- ⑤看護管理者の行動変容

3. 研究に用いる患者様の情報の種類

患者様のバイタルサイン、処置内容、診断名などです。

4. 外部への資料・情報の提供

今回の調査には、電子カルテ上から得られたバイタルサイン・NEWSスコアの情報等を用いるのみであるため、個人は特定されません。データは研究に限って使用し、研究チームメンバー以外には閲覧できないようにしています。また、個人を特定できないようデータを加工しており、研究終了後は速やかにデータを破棄します。

5. 研究組織

【研究代表者】

海老名総合病院 看護部 4A病棟

JMAグループ本部 購買・DX推進本部 DX推進室

看護師 松下 徹

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお、データバンクへ登録後でも、お申し出によりそれ以降の分析から個人データを除外することは可能ですが、お申し出時点より前の分析および発表済みの研究結果からの削除はできない場合がありますので、ご承知下さいますようお願いいたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

施設名：海老名総合病院

住所：神奈川県海老名市中央四丁目 16-1

電話：046-233-1311

研究責任者：松下 徹